

シン・タテバヤシ
ミライスイッチ!



国際的科学・芸術都市(人口25万人)の
デザイン

shin
TATEBAYASHI
シン★タテバヤシ

「水と緑のフードバレー・スマートシティたてばやし」プロジェクト



2022年
シン・タテバヤシ
プロになる!

あえて出る杭にならなければ、時代は開かれない。 未来は来るものでなく、創るものである。

館林市の政策・施策が従来レベルのままであるとき、2040年には市内人口が6万人以下に減少することが推計されています。いったい、どんなまちになってしまうのでしょうか？

シン・タテバヤシは、広域圏で人口25万人をめざす持続可能な地域社会をつくるプロジェクトです。

館林市のZ世代のみなさん、あなたはシン・タテバヤシのプロになる可能性をもっています。

あなたは、あなたの未来をどう創りますか？ともに学び合い、歩んでいきましょう。

勇気と情熱と未来ビジョンをもって！

Vision.1 先人の偉業に倣う



フードバレーをつくることからスマートシティをつくること、つまりシン・タテバヤシをつくることは、維新後県内でいち早くそして明治時代を通じて銀行・鉄道・近代工場を創設したという館林の先人の偉業に匹敵する大事業です。21世紀の私たちも、必ずこのプロジェクトを完遂していきます。



Vision.2 市民への公開と市民の参画

シン・タテバヤシは、館林市の公・民・学連携で推進します。まず、このプロジェクトの方向性は、館林市総合計画審議会の審議委員によって公開審議されるものです。つぎに、プロジェクト推進協議会を立ち上げ、館林広域圏の都市計画や最先端大学構想、個別の実証実験事業、行政・市民生活サービスのDX(デジタル変革)事業がその協議会にて策定されていきます。

Vision.3 北欧モデルをコモンセンスに

福祉資本主義の国家社会のタイプでは、米国モデル・西欧モデル・北欧モデルがあります。シン・タテバヤシは、「新しい資本主義」の考え方で北欧モデルを政策イノベーションのコモンセンスとして学んでいきます。

Vision.5 先進プロジェクト事例

シン・タテバヤシは、海外・国内の先進プロジェクト事例として、以下の都市から学んでいきます。

- ①会津若松市：大学とスマートシティ(スマートシティの日本のお手本)
 - ②柏市：アーバン・デザイン・センターと大学とスマートシティ
 - ③つくば市：スーパー・サイエンス・シティ(世界の科学研究都市)
 - ④新潟市：フードバレーと大学とスマートシティ
 - ⑤オランダ・ワーヘニンゲン大学：(フードバレーの国際的なお手本)
 - ⑥アメリカ・ポートランド市：(環境先進都市の国際的なお手本)
- 都市と大学とスタートアップの関係が未来に対してエッセンシャルです。



Vision.4 人材育成と教育投資

北欧の国々の国は教育です。館林市・市民にとっても人材育成・教育投資こそが持続可能な社会を導くものです。これこそが米百俵の精神です。そしてSDGsでもあります。

Vision.6 1市5町の共有未来

シン・タテバヤシは、館林市・板倉町・明和町・千代田町・邑楽町・大泉町(館林広域圏)の人々と連携し共創し協働し、科学・芸術未来都市を実現していきます。



5回シリーズ
第5回

館林・未来責任フォーラム 代表

「水と緑のフードバレー・スマートシティたてばやし」プロジェクト(愛称：シン・タテバヤシ)

プロジェクトディレクター

佐藤 聰

374-0005 群馬県館林市花山町 3367-1

tel/fax : 0276-73-6253

mobile : 080-5885-6253

11月にWebサイトを開設予定です。

※館林・未来責任フォーラムは、館林市の健やかな未来を考えるために活動している任意団体です。

略歴

館林市立第三中学校 卒業
埼玉県立熊谷高等学校 卒業
国立埼玉大学経済学部 卒業
味の素株式会社を経て、17年間父母のガン闘病を介護
館林市図書館協議会委員
館林市環境審議会委員
館林市総合計画審議会委員
「フードバレー・スマートシティたてばやし」PTを
総合計画審議会で提案



SATOSHI SATO